

# 薬 劑 部

## 1 構 成 員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	16人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	18人

## 2 教官の異動状況

橋本 久邦（教授）（H6. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9編（2編）
そのインパクトファクターの合計	20.08
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Muramatsu H, Horii T, Morita M, Hashimoto H, Kanno T, Maekawa M : Effect of basic amino acids on susceptibility to carbapenems in clinical *Pseudomonas aeruginosa* isolates. Int J Med Microbiol, 293, 191-197, 2003.
2. Miyamoto Y, Uno T, Yamamoto H, Li XK, Sakamoto K, Hashimoto H, Takenaka H, Kawashima

Y, Kawarasaki H : Pharmacokinetics and immunosuppressive effects of tacrolims- loaded biodegradable microspheres. Liver Transplant, 10, 392-396, 2004.

3. 橋本久邦, 内田信也, 加藤安宏, 鈴木咲子, 高井伸彦, 内藤隆文, 山田浩, 大橋京一 : 医療現場における遺伝子情報による薬物治療の個別化への取り組み. 日薬理誌, 123, 41-45, 2004.  
インパクトファクターの小計 [6.19]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Horii T, Muramatsu H, Morita M, Maekawa M : Characterization of *Pseudomonas aeruginosa* isolates from patient with urinary tract infections drug antibiotic therapy. Microbial Drug Resistance, 9, 223-229, 2003.
2. Horii T, Morita M, Muramatsu H, Muranaka Y, Kanno T, Maekawa M : Effects of mupirocin at subinhibitory concentrations on flagella formation in *Pseudomonas aeruginosa* and *Proteus mirabilis*. J Antimicrobial Chemotherapy, 51, 1175-1179, 2003.
3. Kimura T, Horii T, Morita M, Muramatsu H, Kanno T, Maekawa M : Detection of macrolide resistance in *Pseudomonas aeruginosa*. Chemotherapy, 49, 56-61, 2003.
4. Horii T, Suzuki Y, Monji A, Morita M, Muramatsu H, Kondo Y, Doi M, Takeshita A, Kanno T, Maekawa M : Detection of mutations in quinolone resistance-determining regions in levofloxacin- and methicillin- resistant *Pseudomonas aeruginosa* : effects of the mutations on fluoroquinolone MICs. Diagn Microbiol Infec Dis, 46, 139-145, 2003.
5. Uchida S, Watanabe H, Nishino S, Hashimoto H, Yamazaki K, Hayashi H, Ohashi K : Altered pharmacokinetics and excessive hypotensive effect of candesartan in a patient with the CYP2C9\*1/\*3 genotype. Clin Pharmacol Therapeutics, 74, 505-508, 2003.

インパクトファクターの小計 [13.89]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 富岡謙二, 橋本久邦 : 薬物アレルギー再発防止に向けた患者情報管理 アレルギーカードの活用. 月刊薬事, 45, 2379-2384, 2003.

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 内田信也, 高井伸彦, 橋本久邦, 古瀬洋, 影山慎二, 牛山知己, 鈴木和雄, 大園誠一郎, 山田浩, 大橋京一 : 腎移植患者におけるタクロリムスの体内動態に対するMDR1遺伝子変異の影響, 臨床薬理, 35, 88S-89S, 2004.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 中村龍太, 加藤安宏, 橋本久邦: 前立腺肥大症治療薬と患者への説明. 薬局, 15, 797-808, 2004.
2. 橋本久邦, 村松英彰: 当院における抗MRSA薬のTDM. The Horizon of Pharmacists Infect Microbiol, 20-26, 2003 No9.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 峯田周幸, 橋本久邦: 病気別・薬の効果と副作用 めまいの薬, きょうの健康, 161-168, 2003年10号.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

## 4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

## 5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	3件 (160万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	5件 (173万円)

## 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	1件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 5) 一般発表

##### ポスター発表

Shiya Uchida, Nobuhiko Takai, Hisakuni Hashimoto, Hiroshi Furuse, Shinnji Kagayama, Tmio Ushiyama, Kazuo Suzuki, Seiichiro Ozono, Hiroshi Yamada, Hiroshi Watanabe, Kyoichi Ohashi. The influence of human MDR1 gene polymorphism on pharmacokinetics of tacrolimus in renal transplants.

### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本医療薬学会評議員, 日本薬理学会評議員, 日本薬学会東海支部幹事, TDM学会評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件

(3) 学内共同研究	3件
------------	----

(2) 国内共同研究

- ・医薬品の副作用に関する患者情報管理に関する研究
- ・向精神薬の薬効に関与する要因の研究の結合

(3) 学内共同研究

- ・免疫抑制剤の体内動態と薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝的多型
- ・経口血糖降下薬の体内動態に関与する変動要因の研究
- ・免疫抑制剤ミコフェノール酸の薬物動態とその変動要因の解析

## 10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. クロリムスのトラル値はCYP3A5のSNPsで影響されこと、バイオアベイラビリティはp-糖タンパクの遺伝子MDR1変異により影響されることがあきらかになった。
2. ミコフェノール酸およびその代謝産物の測定法を確立し、患者のこれの体内動態を解析するシステムを構築した。
3. 抗うつ薬の血中濃度およびトランスポータへの結合と薬理効果の関連性を動物モデルで明らかにした。

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

## 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

## 15 新聞，雑誌等による報道